

2014 年度（第 4 事業年度）

「事業報告書」

一般財団法人 Ruby アソシエーション

1 事業の概要

2014年度の当財団の活動は、Ruby技術者認定試験の改定やRuby Business Users Conference 2015の実施、またアメリカのRuby CentralからのRuby安定版保守業務に対するの支援を受けるなど、既存の事業に対する充実化と長年の目標であった海外Ruby組織と協力した事業を展開するなどの新たな試みを実施致しました。

本書では当財団の2014年度の実施状況について報告します。

2 体制及びその変更

1) 評議員

2014年度評議員

- ・石川 明 (株)日立ソリューションズ
- ・出田 健二 (株)まちづくり三鷹
- ・及川 喜之 (株)セールスフォース・ドットコム
- ・大場 寧子 (株)万葉
- ・後藤 裕蔵 (株)ネットワーク応用通信研究所
- ・最首 英裕 (株)グルーヴノーツ
- ・立久井 正和 (株)インターネットイニシアティブ
- ・中島 宏 (株)DTS
- ・羽田 昭裕 日本ユニシス(株)
- ・平松 知江子 (株)富士通ソーシャルサイエンスラボラトリ
- ・森 正弥 楽天(株)
- ・吉岡 宏 (株)テクノプロジェクト
- ・吉田 正敏 富士通(株)

2) 理事

- ・代表理事理事長 松本 行弘
- ・副理事長 井上 浩
- ・理事 山根 泉
橋本 明彦
田中 和明
笹田 耕一

3) 監事、顧問及び事務局

- ・監事 今岡 正一（公認会計士）
- ・顧問 松浦 正敬 松江市長、溝口 善兵衛 島根県知事
- ・事務局 前田修吾（事務局長）が事務局業務全般を統括し、常勤スタッフ2名の他、松江市、島根県による人的支援によって運営しました。その他、事例収集のため外部のライターと、規格文書の保守および改訂の作業のため外部の専門家と契約を行っています。

4) 評議員選定委員会

- ・委員長 立久井 正和 (評議員)
- ・委員 今岡 正一 (監事)、横田 早百合 (事務局員)、
田代 秀一 (外部委員)、高橋 征義 (外部委員)

3 実施事業

1) 公募型開発支援プロジェクト

Ruby 及び周辺環境の改善を目的に Ruby 処理系、ライブラリ及びフレームワークに関連する開発プロジェクト (既存のソフトウェアを改良するプロジェクトを含む) を公募し、グラント委員会で選考の結果、以下 3 件のプロジェクトを採択しました。

いずれも 2015 年 3 月 31 日までに開発を終え、その成果を公開します。

- ・応募件数: 9 件 (国内 7 件)
- ・採択件数: 3 件

①採択者: 井出 真広	プロジェクト: RuJIT: a trace-based Just In Time compiler for CRuby
RuJIT プロジェクトは, CRuby 処理系向け Just In Time コンパイラ RuJIT の構築を目指す。このプロジェクトの目標は, JIT コンパイラによる Ruby スクリプト実行の高速化にある。RuJIT では, 既存のコンパイラ最適化手法に加え, Ruby 言語に特化した最適化, 高速化の工夫を行い, 処理性能の大幅な向上を行う。加えて, CRuby 処理系への採用を目指し, 品質・互換性の向上を行う。	
②採択者: 西田 直樹	プロジェクト: DataFrameの開発による科学用途のgem開発の促進
MikonはRubyでデータ解析・可視化を簡単に行えるようにするプロジェクトです。このプロジェクトではデータ可視化用gemのNyaplot,統計処理用gemのStatsampleと連携し、データの読み込みと操作,解析,可視化をRubyで統一して行えるようにすることを目標とします。また、Web上のRuby実行環境であるIRuby上で解析・可視化を一度に行うGUIの実装を実験的に実装します。	
③採択者: Deivid Rodriguez	プロジェクト: Threading Support for Byebug
Thread debugging support in Byebug. The feature will allow users to debug multithreaded programs: thread switching, pausing and resuming specific threads, list active threads and so on.	

2) Ruby安定版保守事業

ユーザが安心して Ruby を利用できる環境を構築するため、Ruby 安定版の保守事業を実施しています。事業仕様策定後に業務を外部機関に委託することとし、委託先の選定に際し公募を行った結果、中村宇作様を委託先に決定しました。委託期間は 2015 年 3 月 31 日までです。また 2014 年度は、アメリカの非営利組織である Ruby Central より本事業に対して助成金の交付を受けました。

3) Rubyに関する情報発信事業

(1) Webでの情報発信

協賛会員をはじめ、Ruby をビジネス利用する企業に利用事例作成編集の担当スタッフが当該企業担当者に直接面談し、概要情報と詳細情報の作成を行いました。これらの情報は、利用時の背景事情、適用されたビジネス・システム分野やその特性など、利用企業のみならずエンドユーザ(企業や個人の場合あり)の損益にも深く関わる場合があることから、公開前に利用企業等による内容確認を実施し(その際にエンドユーザに了解を得ることもあった)、関係者合意の上で財団ホームページに掲載しました。2014年度は新たに4件の利用事例を紹介しました。

2014年度 新規掲載企業	テーマ
株式会社インターネットイニシアティブ	Ruby on Rails で手軽に開発・運用コストを最小化できる純国産 PaaS「MOGOK」、セキュリティも万全
freee 株式会社	継続的デリバリで常に進化する会計ソフト 会計 freee
株式会社日立ソリューションズ	300画面の大規模 Web システム「建設業情報管理システム」を Ruby で構築、開発規模を 1/5 に削減
株式会社日立ソリューションズ	020ソリューションの開発に Ruby を採用することで、短期間、低コストを実現した『ReBee』

また、投稿者自身によって Ruby 事例が紹介できる「投稿版」の事例紹介の成果を公開致しました。(2015年3月3日現在 20件)

(2) RubyWorld Conference 2014 の開催

2014年11月13日(木)、14日(金)、島根県立産業交流会館「くにびきメッセ」(島根県松江市)にて、6回目となる「RubyWorld Conference 2014」を開催しました。主催は、RubyWorld Conference 開催実行委員会(構成機関: Ruby アソシエーション、島根県、松江市、島根大学、松江高専、ジェトロ松江、しまね産業振興財団、島根県情報産業協会、しまね OSS 協議会、経済産業省中国経済産業局)、その他、多くの機関の後援、協賛をいただき実施しました。今回の国際会議では、Ruby に関するビジネス利用事例や、最新技術の情報、開発者教育の状況などを紹介する様々なセッションを通じて、Ruby がより多くの領域に普及していくことを目指し、国内外 20 名が講演し、来場者数は 2 日間で延べ 876 名(詳しくは下記を参照)を数えました。オープニング・セレモニーで、まつもと実行委員長、溝口善兵衛島根県知事、吉山治松江市副市長の挨拶に続き、経済産業省 商務情報政策局 野口聡 情報処理振興課長に、来賓ご挨拶をいただきました。

引き続き基調講演では、Ruby の開発者まつもと委員長が「Ruby が教えてくれたこと」と題し講演。また、2日目の基調講演では、米大統領イノベーションフェロー/Mightyverse CTO、Sarah Allen 氏が「Ruby in the US Government」と題して、米大統領イノベーションフェロー・Mightyverse CTO として両分野での仕事のご紹介と、その開発プロセスにおける相違点や共通のテーマについてご講演い

ただきました。

初日の午後は、新たに Ruby コミュニティに貢献した方の活動を表彰す「Ruby コミュニティの新人賞」として、昨年よりスタートした Ruby Prize 受賞者の発表と表彰が行われました。その他、国内外の Ruby の技術者、企業関係者が講演し Ruby の更なる普及・発展に向けて活発に議論がなされました。なお、クロージング・セレモニーでは、井上浩 実行委員会副委員長が、2 日間の議論を振り返るとともに、来年の Conference の開催意向を表明し、閉幕しました。

- 来場者について 2 日間延べ 876 名(11 月 13 日 495 名、11 月 14 日 381 名)
来場実数 658 名 (県内 216 名、県外 433 名、海外 9 名)
 - ・ IT 企業関係者 447 名 (県内 108 名、県外 334 名、海外 5 名)
 - ・ その他企業関係者 35 名 (県内 17 名、県外 16 名、海外 2 名)
 - ・ 行政関係者 17 名 (県内 0 名、県外 17 名)
 - ・ 研究教育機関関係者 113 名 (県内 104 名、県外 9 名)
 - ・ 一般 (所属なし) 26 名 (県内 8 名、県外 18 名)
 - ・ 講演者 20 名 (県内 7 名、県外 11 名、海外 2 名) ※Ruby Prize 含む
- 講演者について
 - ・ 国内 18 名 (企業関係者 16 名、教育機関関係者 1 名、)
 - ・ 海外 2 名 (アメリカ 2 名 うち企業関係者 1 名)

(3) Ruby ビジネスセミナー

当財団の単独主催、又は関係機関との共催、協力を得てビジネスセミナーを開催致しました。これらのセミナーでは、Ruby の利用状況と今後のビジネストレンドをはじめ、開発現場で必要とされる技術情報など、開催地の状況に応じた話題提供をすることで参加者のニーズに合わせたセミナー機会を提供しました。また、セミナー後の質疑応答やセミナー後の意見交換の場など、Web 上だけではない「リアルなビジネス交流」の機会を提供しました。

各セミナーでは参加者にアンケートを実施し、情報発信事業に対する評価と当財団への要望も意見集約し、今後の事業内容の検討にも活用しています。

開催時期、会場	開催テーマ	来場者数 (名)
2014 年 6 月、東京	PaaS ビジネスへの活用集	約 60 名
2014 年 10 月、東京	エンジニア教育	約 80 名
2015 年 1 月、大阪	Ruby コミュニティ、イノベーション	約 90 名
2015 年 2 月、東京	Ruby Business Users conference 2015	約 120 名
2015 年 3 月、松江	Matz に何でも聞いてみて	約 15 名

4) Ruby技術者認定試験事業

2014年10月1日より旧試験を改定し、Ruby Association Certified Ruby Programmer version 2.1の配信を開始致しました。

認定者は、Ruby技術者としての技術力を公正に評価され、高い水準のRubyによるシステム開発能力を持つことを認定されます。認定によりRubyベースでシステム開発を行ううえで必要な基礎的な知識と応用力をもつことをアピールすることができます。

試験の合格者は、当財団が「Ruby Association Certified Ruby Programmer」として認定します。現在は、国内(試験区分：Silver、Gold)、海外(試験区分：Silver)で実施しており、2012年10月より当財団が直営実施(CBT受験環境、オペレーションはプロメトリック社に委託)しており、安心して受験いただける環境を提供しています。

5) 事業者認定事業

従来から実施している認定システムインテグレーションプログラム(Rubyの高い技術力を持った企業を認定)に加えて、2012年10月から認定教育機関プログラム(Rubyの教育をおこなう高い技術を持った企業を認定)、認定サポート事業者プログラム(Rubyのサポートサービスを提供する高い技術を持った企業を認定)、及び認定クラウドサービス事業者プログラム(Rubyアプリケーションの運用に適したクラウドサービス(IaaS、PaaS)をおこなう高い技術を持った企業を認定)の各プログラムを実施しています。2014年12月31日時点での認定企業数は以下のとおりです。

認定種別	Gold	Silver
認定システムインテグレーションプログラム	21(18)	67(58)
認定教育機関プログラム	3(3)	1(0)
認定サポート事業者プログラム	2(2)	—
認定クラウドサービス事業者プログラム	3(3)	1(1)

※()内は前年度数

6) 協賛会員事業

- ・会員資格

法人、任意団体及び個人

- ・会員種別、会費

年会費 1口 10万円(4月を開始月とします)

①Platinum Sponsor 5口以上(50万円以上)

②Gold Sponsor 2口以上(20万円以上)

③Silver Sponsor 1口以上(10万円以上)

2014年12月31日時点での協賛会員数は、以下のとおりです。

Platinum : 年間5口以上	Gold : 年間2口以上	Silver : 年間1口以上
11(12)	21(19)	45(41)

※()内は前年度数